

重なる注意が必要)している。また、河川の状況等を把握し、監視局との連絡を密に保ちながら実施している。

(二) 伊良原ダム

祓川は、今川と同じく英彦山に源を発し、本町の南部より北東へ豊津町及び行橋平野を貫流して周防灘に注いでいる。流路延長二八・一四キロメートルで、流域面積七一・二平方キロメートルの二級河川である。

昭和三十五年十月今川・祓川総合開発事業の多目的ダム(洪水調節、灌漑、水道、工業用水の供給)建設の調査について、県知事より協力の要請があり、昭和三十六年に地元説明会が開催され予備調査が開始された。以下にその経過を簡単に述べる。

昭和三十八年より、県は今川上流域に油木ダムの建設に取り組みを始めたために、昭和四十八年まで調査を取りやめていたが、昭和四十九年に県は実施計画調査の採択を受け調査を再開し、地質調査を始め、同時に下伊良原区において下伊良原ダム対策協議会が設立される。同協議会は、その後昭和五十一年五月に下伊良原ダム対策協議会と伊良原ダム対策水没者地権者同盟会に分かれる。ダムサイトの位置が昭和五十九年十二月に下伊良原の高座に決定される。北九州市が昭和六十二年十一月に計画不参加の表明をする。平成元年九月に役場内に伊良原ダム対策室が設置され(職員二人)、同三年六月より職員三人が配置され業務遂行をしている。平成二年に伊良原ダムが建設事業として国の採択を受け、県知事がダム建設の協力依頼のため来町する。再度下伊良原ダムの対策協議会が平成二年五月に次の三つの組織に分かれる。
。下伊良原ダム対策協議会、。下伊良原ダム対策水没者地権者同志協議

会、。広瀬ダム対策協議会

町では平成二年十月に犀川町伊良原ダム水源地域整備連絡研究協議会が、帆柱、扇谷、上伊良原、下伊良原、横瀬区こよせの区長、副区長ほか各団体の代表者一九人で発足する。平成三年三月に京築地区水道企業団(二市五町一村)と、田川地区水道企業団(一市四町)が設立され福岡県と基本協定を締結する。平成三年六月の定例町議会で議員全員による伊良原ダム対策特別委員会が設立される。

伊良原ダムは、平成十二年度完成目標で進んでいる。総事業費五八五億円、重力式コンクリートダム、堤高八〇・〇メートル、堤頂長三四〇・〇メートル、総貯水量二万八七〇〇×一〇立方平方メートル、有効貯水量二万七五〇〇×一〇立方平方メートル、集水面積三六・八平方メートル、湛水面積一・二二平方メートルである。

二 池 沼

行橋農林事務所が昭和四十二年に調査した管内の溜池調査台帳によると、犀川町全体の溜池は九五、その総貯水量は二一八万三九八〇立方メートル、灌漑総面積は一七四・一八ヘクタールとなっている。池の築造年次をみると江戸時代二三、明治時代三四、大正時代一二、昭和に入ってから一九、不明七となっている。犀川町分の溜池台帳は次のとおり第6表である。なお、現在における町内の大きな池は次の二つである。

(一) 本 庄 池

町の中心部の高台に周囲四キロメートル、貯水量一五〇万立方メートルの人造湖の犀川公

第6表 町内の主な池沼

No.	大 字 名	池 沼 名	構 築 年	貯 水 量	灌 漑 面 積
				立方メートル	ヘクタール
1	帆 柱	家の上	明治2年	400	0.2
2	扇 谷	スゲガ	〃	540	0.5
3	扇 谷	石原	〃	400	0.5
4	扇 谷	上ノ山	〃	400	0.2
5	上伊良原	城野	大正8年	1,800	1.0
6	扇 谷	オバタケ	明治20年	1,500	0.8
7	扇 谷	原	〃	8,000	1.6
8	下伊良原	小	〃	1,500	0.4
9	扇 谷	城山	〃	1,800	0.5
10	扇 谷	原山田	〃	600	0.3
11	横 瀬	梅ケ谷	昭和2年	450	0.15
12	扇 谷	丸山	昭和6年	2,000	1.0
13	扇 谷	高野	慶応2年	200	0.15
14	扇 谷	引地の下	昭和2年	700	0.2
15	扇 谷	引地の	〃	600	0.2
16	木井馬場	城山寺	昭和5年	900	0.3
17	扇 谷	宮ノ下	〃	400	0.1
18	扇 谷	耳取	〃	6,000	2.4
19	扇 谷	正安寺	〃	4,600	0.8
20	内 垣	上山	大正8年	600	2.2
21	扇 谷	キヨトシ	昭和2年	400	0.5
22	扇 谷	孤ケ迫	大正8年	600	0.2
23	扇 谷	羽迫	慶応2年	1,200	0.5
24	柳 瀬	免入ド	昭和10年	1,000	0.3
25	大 坂	明ケ谷	大正2年	400	0.2
26	扇 谷	中ケ谷	〃	400	0.1
27	扇 谷	笹ケ原	〃	1,500	1.3
28	扇 谷	長尾	〃	900	0.5
29	大 村	石尾堂	明治初期	500	0.2
30	扇 谷	宮	〃	1,800	3.0
31	扇 谷	新	昭和19年	3,200	3.0
32	鏡 畑	人 道	大正元年	300	0.03
33	上喜多良	ト峠	昭和10年	2,000	0.6
34	大 熊	トビゴ	元治元年	500	0.15
35	扇 谷	小豆	〃	3,000	1.0
36	扇 谷	マナゴ	〃	3,000	1.5
37	本 庄	カナイガ	明治2年	1,800	0.3
38	扇 谷	柴山	〃	1,000	0.4
39	上 高 屋	箕羽山	明治4年	900	0.3
40	扇 谷	二ツ石	〃	500	1.0
41	扇 谷	中尾	〃	5,600	4.0
42	扇 谷	宮ノ下	〃	7,000	2.5
43	扇 谷	長迫	〃	12,000	6.3
44	扇 谷	椎木谷上	〃	1,000	1.5
45	扇 谷	椎木谷下	〃	1,500	1.5
46	下 高 屋	山ケ谷の	慶応元年	200	0.3

第3章 地勢と気候

47	下	高	屋	山	ケ	谷	下	慶応元年	4,000	5.0
48		〃		水	昌	田		〃	400	0.2
49		〃		面	ケ	迫	上	文久元年	1,000	0.3
50		〃		面	ケ	迫	下	〃	1,200	0.2
51		〃		勿	体	ケ	迫	昭和元年	9,000	6.0
52		〃		ト	ト	ノ		慶応元年	400	0.3
53		〃		グ	ミ	ケ	迫	昭和元年	5,000	3.0
54	本		庄	本	庄	池		昭和23年	1,539,080	550.0
55		〃			虎			大正元年	15,000	10.0
56	古		川		新			安政元年	14,000	25.0
57		〃			大			〃	140,000	25.0
58		〃			下			〃	30,000	25.0
59		〃		常		道		〃	10,000	1.5
60		〃			寺			〃	1,000	0.25
61	松		坂	赤		道		慶応元年	400	0.2
62		〃		笹		原		明治13年	750	0.3
63		〃		松	坂	上		大正3年	2,000	0.5
64		〃		松	坂	下		大正5年	2,000	0.5
65		〃		城	坂	上		明治2年	4,000	1.0
66		〃		城	坂	下		〃	2,000	0.4
67	谷		口	貴		船		明治5年	2,000	1.0
68		〃		小	太	石		〃	4,000	2.0
69		〃		神		田		〃	15,000	15.0
70		〃		大	無	田		〃	36,000	20.0
71	木		山	福	六	の	2	慶応2年	1,200	0.5
72		〃		福	六	の	1	〃	10,000	5.0
73		〃			新			〃	12,000	5.0
74		〃		杓		子		明治2年	12,000	5.0
75		〃		杉	ケ	谷		〃	1,100	0.3
76		〃		浦		田		〃	10,000	2.0
77		〃		宮		田		慶応元年	15,000	15.0
78		〃		小	井	頭		〃	50,000	6.0
79	末		江	郷	屋	ケ	谷	明治2年	10,000	6.0
80		〃		平		原		?	600	0.3
81		〃		長		迫		?	360	0.5
82		〃		大		屋		明治2年	5,400	1.5
83		〃		池	ケ	迫		〃	5,400	1.5
84	久		富	手		取		安政元年	20,000	3.0
85		〃			上			?	6,000	2.4
86		〃		玉	の	井		昭和5年	8,000	2.4
87	花		熊	姫		神		?	2,000	1.0
88		〃		鯉		頭		昭和12年	36,000	14.0
89		〃			新			?	2,000	3.5
90		〃		幸	ケ	谷	上	〃	10,000	10.0
91		〃		幸	ケ	谷		〃	10,000	10.0
92		〃		御		所	園	〃	300	0.4
93	久		富			小		大正元年	2,300	15.0
94		〃				新		昭和5年	30,000	15.0
95		〃		小		堤		〃	500	1.6

園本庄池がある。現在では農業用水池としてだけでなく、周辺を整備し、自然歩道や池には、鯉、鮒、ハヤ、ワカサギ等の魚が豊富で年中太公望の別天地である。豊かな水面には緑の帝釈山が映え、犀川公園としての開発が進められつつある。本庄池の工事着工は昭和十三年度で昭和二十三年度に工事が完了している。総事業費は四二万八〇〇〇円、貯水量一四九万八七二〇立方メートル、堤高二〇・三メートル、堤長は本堤二四三・五メートル、副堤が一八五・一メートルで、堤体積二六万六四二九立方メートル、放水路一四・八五メートル、導水路二二四八・五メートル（犀川町大字喜多良くずれより取水）である。

(二) 石堂池

農業用水池として、昭和五十七年度に新設した。着工は昭和五十七年度、完了は五十九年度。総事業費六億九五〇〇万円、貯水量一〇万一〇〇立方メートル、堤長八〇メートル、取水路六九メートル、余水吐七六メートルである。

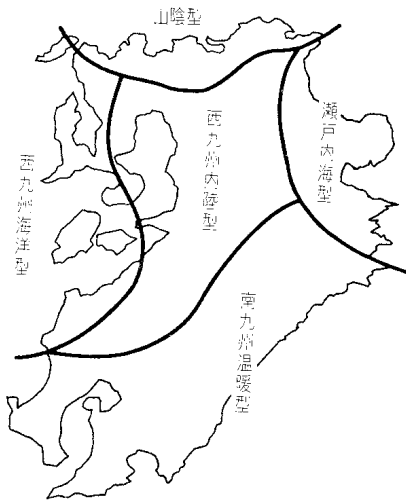
第三節 気 候

一 福岡県の気候区分

〔福岡県管区気象台
『新福岡県の地理』(一九七四年光文館)参考〕

福岡県の気候は、冬は真正面から北西季節風を受けて、しばしば亜寒帯的な気候で、曇天、降雪の多い日本海型の気候となる。夏は南東季節風の影響で、亜熱帯的酷暑と降雨の多い太平洋型の気候となる。その間六月の梅雨期は年間の最多雨月をなし、また八、九月に頻度の高い台

第5図 九州の気候区分



(福岡管区気象台資料)

第4図 福岡県の気候区分

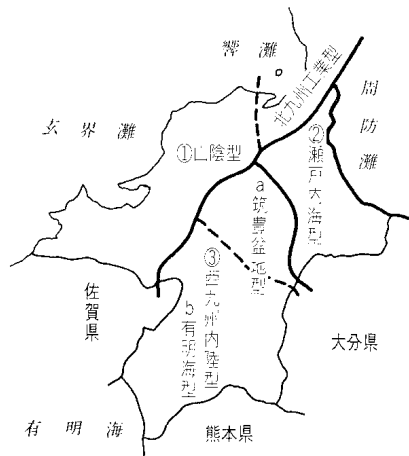


図1 福岡県の気候区分